令和4年度
学校関係者評価報告書

令和5年4月

学校法人すみれ学園

四国医療福祉専門学校

1　学校関係者評価委員

委員

野﨑　泰博　委員長（元高等学校校長）

山口　吉英　委員　（特別養護老人ホーム愛生苑　施設長）

山田　能之　委員　（医療法人社団叶夢会　やまだ歯科クリニック　事務長）

小野　茂男　委員　（医療法人社団海部医院　透析室室長）

神原　良宏　委員　（本校卒業生）

中山　照枝　委員　（本校在校生保護者）

学校

森　　國夫　（校長）

小西　明弘　（事務課長）

東原　由佳（介護福祉学科）

定木　啓至　（医療事務学科学科長）

西岡　幹人　（臨床工学学科学科長）

水井　資道　（広報課長）　　（計12名）

事務局

小西　明弘（事務課長）、水井　資道（広報課長）

2　学校関係者評価の実施方法、公表

学校関係者評価の実施にあたっては、学校関係者評価委員に自己点検評価の結果を各担当者より説明し、評価結果についてご意見をいただきました。いただいたご意見を本報告書の中に取りまとめ、今後の教育活動や学校運営の改善に活かし、教育の向上に努めることとし、ホームページに公表致します。

3　学校関係者評価委員会　開催日時

令和5年3月25日（土曜日）　10時00分～11時40分　　本校5階会議室

1.校長挨拶及び趣旨説明　　森　國夫校長

2.学校関係者評価委員紹介　　事務局

3.学校関係者紹介　　事務局

4.自己評価概要説明

5.意見交換

自己点検評価の説明について、質疑応答や改善点の提案等について意見交換（別紙参照）

6.閉　会

別紙

令和4年度 学校関係者評価委員会 質疑応答・意見内容

発言者	内容
山口委員	今年度の介護福祉士国家試験合格率100%は素晴らしいと思う。介護福祉士の専門性が高くなる中で、全員を合格水準に持っていくのは難しいことだと感じており、先生方の支援してきた課程も評価されるべきである。
山田委員	人や物事の評価方法はとても難しいと実感している。当院でも人事考課制度を今年度改めたところであるが、これまでも試行錯誤の連続であり、10年程度かけてようやく確立出来つつあると感じている。評価制度を創設後に入職した職員は、前向きに捕らえてくれており、主体的に仕事に取り組めているように思う。 また当院では社会貢献・地域貢献の為にボランティア休暇を3日間作ったが、この学校でも在学中に社会貢献や地域貢献の大切さを感じて欲しい。
小野委員	当院で受入れている実習生や若い世代の職員から感じることをお話すると、非常に実習や仕事に対する向き合い方に個人差があると感じる。 人工透析業務について、大切にして欲しいことを最初に伝えるのだが、素直に理解してくれる場合もあれば、そうではない場合もある。残念に思うことは患者さんを医療機器と同じように物として扱ってしまう場合が見受けられることだ。当然、命を預けている患者さんからは信頼されないし、苦情をいただく場合が出てきてしまう。またインシデント(医療事故)が起きた際にも真摯に反省する者もいれば、ただインシデントレポートを出して、改善が見られないものもいる。 この学校やこの学校の姉妹校出身の卒業生を数名がスタッフとして勤務しており、素直な者が多く助かっているが、ある大学出身の職員は、プレゼンテーションスキルは高いのだが、国家試験合格に満足している者やこちらが指導したことが素直に受入れられない者もいる。 このようなことが当院で現状であるが、国家試験合格をゴールとして捉えないことや、人間性の大切さを今後も教育を通じて伝えていって欲しい。
神原委員	コロナ禍の中で現場実習やボランティア活動の機会が減少したのは大変残念に思う。介護業務をただ行うだけの方もいるが、利用者様は一人ひとり違うことを認識して欲しいし、どのような接し方をするのか考える力が必要ではないか。 また私自身が講師としてこの学校に伺うこともあるのだが、その際に学生の皆さんから挨拶してくれることは素晴らしいことである。今後もぜひ続けて欲しいと思っている。 コロナ禍が終われば色々な方々と関わり、人として成長して欲しい。
中山委員	無事に卒業を迎え、国家試験にも合格出来て安堵している。振り返ると自分の子どもは、高校1年生の時から介護分野に進みたいと考えていて、福祉施設での一日体験やこの学校のオープンキャンパスに参加する中で、進路が明確になっていった。 入学時、学習面は不安だったが、担任制度があったこと、大半が常勤教員だったこと、コロナ禍の中で現場実習が出来なかった際にも設備が揃っていたこと、個別の進路指導・学習指導の実施が行われたこと、読むべき図書のアドバイスがあったことなど、このようなことは大変良かったと感じている。 ネット社会ではあるが、オンラインではなく、対面で人との触れ合いがあったり、実習記録を書く中でさまざまな振り返りが出来たりしたことは、人としての成長に繋がったと考えている。

	この学校で学ぶ中で、同じ介護職員ならば、この人にお願いしたいと言ってもらえるような人材になれたと思っている。今後もこの方向で指導を続けていって欲しい。
野﨑委員長	委員の皆さんのご意見をいただく中で、人と人の触れ合うことの大切さを挙げられている方が多かったことが印象的だった。また人間性を向上させることの大切さも感じられた。
野﨑委員長	一般教養を高めるために取り組みは何を行っているか？
西岡学科長	臨床工学学科では、学内での研究活動の実施、臨床工学技士会が実施している学会やセミナーへの参加を行い、出来る限り外の世界に触れるようにしている。
定木学科長	医療事務学科では、社会実務という科目を設定し、気持ちの良い挨拶の実施、コミュニケーション力向上が図れるように取り組んでいる。また化粧品会社の方に協力いただき、卒業後に受付業務を行うことを意識したメイキャップ教室を行っている。
東原	介護福祉学科では、パソコンやスマートフォンを使う時代だからこそ、敢えて漢字の読み書きの学習や介護実習日誌も手書きで書くように指導している。また挨拶の仕方や社会人としてのマナー教育にも力を入れている。
野﨑委員長	各委員の方への質問であるが、卒業までに学んでおいて欲しいことは何か？
山口委員	挨拶や社会人としてのマナーを指導することはこのまま続けて欲しい。また今後、留学生の方が入学することになれば、異文化交流を行うことで、本校教職員の応対にも良い影響を与えられるのではないか。
山田委員	当院にも外国人の方が来院されるが、英語で意思疎通が出来る職員がいない為、治療方針を伝え、要望を正確に理解することに大変苦慮していることから、英語力の必要性を実感している。現在は小学校から英語教育が行われており、以前と比べると中学生の英語力も向上しているように感じられる。このようなことから専門学校生に対しても英語の授業を行った方が良いのではないか。
小野委員	若年層の方は自己アピールが苦手であることが多いように感じられる。自分自身を理解出来ていないのではないかと考えられるので、そのようなことに配慮した時間を設けて欲しい。
野﨑委員長	総括的なことを述べさせていただくと、この学校を存続させていく上で何を行うべきかよく認識していると感じた。今後はリカレント教育へのニーズに対応出来るような体制を整えて欲しい。
森校長	専門学校は資格取得への支援が中心になりがちであるが、コミュニケーション力や問題解決能力を向上させる場を作っていきたいと感じた。次年度からは平日に敢えて空き時間を設定し、学生の希望や状況にあわせて自由に活用出来るようにしたので、そのような時間で取り組んでいきたい。 ご提言いただいたように社会人の方の学び直しの場となれるよう、学費支援制度の周知も図ってまいりたいと考えている。